

自己評価結果公表シート（令和7年度）

学校法人育保学園 アエしくまのだ

1. 本園の教育・保育理念

「一人ひとり」の個性が輝く毎日を送る事ができるような環境を整え、様々な経験と遊びを通じて健全な心身の発達を助長し、情操豊かな子どもの育成を目指す。

2. 本園の教育・保育のねらい

- ・自ら考え、行動する力を育てる。
- ・人を思いやる気持ちを育てる。
- ・集団生活を通して、規範意識を持つ力を育てる。
- ・新しいものを生みだそうとする力を育てる。

3. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・保育環境の充実と見直し
- ・子ども理解
- ・子どもの主体性を大事にした保育

4. 評価項目の達成及び、取り組み状況

評価項目	取り組み状況・結果
・保育環境の充実と見直し	・「豊中市教育・保育環境ガイドライン」を用いて複数項目の見直しを行った結果、各クラスの保育環境の充実が見られた。 ・各クラスに必要な手作り玩具や仕切りなどを計画的にフリー職員へ依頼し、タイムリーな環境設定を行うことができた。 ・他園の公開保育へ参加し、自園に取り入れられる要素を積極的に反映させることで、保育環境のさらなる充実を図ることができた。 ・園庭の環境については、週2回ほど振り返りの機会を設けて子どもの様子の共有や環境の見直しを行ってきたが、意見があまり出ない場面もあり、次年度の進め方について検討する必要がある。
・子ども理解	・毎日のミーティングにおいて子どもの様子を共有する機会はあるが、怪我などの報告が中心となり、子どもの内面に関する対話の機会が少なかった。 ・月に一度の職員会議では、各クラスの子ども様子を共有し合う機会を設けていたものの、頻度が少ない点や、文面みの共有に留まる点が課題であった。そのため次年度は、保護者向けに発行している保育ポートフォリオを活用し、子どもの姿を写真を通して語り合う機会を設けていきたい。
・子どもの主体性を大事にした保育	・本園では「子ども主体の保育」を保育のねらいとして掲げ、実践に努めてきた。外遊びの際にも、室内と戸外のどちらでも自由に遊べる環境を整え、子ども自身が主体的に遊び場を選択できるように配慮した。 ・給食の時間についても一律に促すのではなく、子どもの食べたいタイミングで食事がとれるよう保育の流れを工夫した。その結果、子どもが自分なりに遊びの区切りをつけて食べ始める姿が見られるようになった。今後は、保育者の都合が優先されている場面がないかを改めて検証し、次年度以降もさらに子どもの主体性を尊重した保育を展開していきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・子ども理解	・子どもの発達過程について学び直し、子どもを理解する上で必要な知識を再確認した上で、今後は目の前の子どもの姿とそれらの知識を照らし合わせ、適切な関わりや援助を行っていきたい。
・保護者支援、地域支援の充実	・保育ポートフォリオを活用して、子どもの姿を語り合う機会を設け、担任以外の保育者からの異なる視点での子ども理解を共有していきたい。これにより、多角的な視点から子どもの姿をより深く理解できるようになるため継続して取り組んでいきたい。 ・在園児の保護者に対しては、日々の育児に敬意を表しながら、保育者ならではの専門的なアドバイスを積極的に行っていきたい。そのためにも、まずは日常の何気ない会話を重ねて関係性を深め、保護者が気軽に相談しやすい信頼関係の構築に努めていく。 ・地域支援としては、近隣の公園へ保育者が出向くアウトリーチ（出前保育）を実施することで、社会的に孤立している親子との接点を生み出し、育児相談等につなげていきたい。また、孤立しがちな保護者の話し相手になるだけでも、子育てに対する孤立感や疲弊感の軽減につながることを期待されるため、今後も積極的に地域へ関わっていきたい。
・保育スキルの向上	・園内研修や外部研修を通して、保育者一人ひとりのスキル向上に努めていきたい。